

# 福岡東医療センターの体制を強化!

福岡県議会議員  
【古賀市】

# 田辺かずき 県政報告

古賀発! ただいま  
県政刷新中!

～第18号～  
2014年8月発行

<田辺かずき事務所>  
〒811-3103 福岡県古賀市  
中央 1-6-41-203  
TEL : 092-692-8510  
FAX : 092-410-7730  
メール : challenge@  
tanabe-kazuki.jp

【裏面もあります!】  
■一般質問の詳細

## 県、救命救急センターに指定 感染症の専用施設を整備

福岡県議会の6月定例会  
(6月6日～6月24日)が開  
催されました。私は就任以来、  
連続13回目となる本会議・一  
般質問で、「医療体制の強  
化」をテーマとして小川洋知  
事に問題を提起し、取り組み  
を促しました。いつものよう  
に、古賀市内各地で毎週開催  
している対話集会などで地元

の皆さんからいただいたご  
意見などを踏まえ、質問し  
ました。

特に今回の質問は、地元  
の国立病院機構・福岡東医  
療センター(上野道雄院  
長)の体制強化に焦点を当  
てました。県は7月1日、  
福岡東医療センターを救命  
救急センターと感染症指定  
医療機関に新たに指定し、  
古賀市のみならず本県の医  
療体制が大きく前進してい  
ます。

これまで、北九州市と福  
岡市の中間エリアには救命  
救急センターがなく、整備  
が大きな課題でしたが、県  
の保健医療計画に基づき、  
このエリアに位置する福岡  
東医療センターを救命救急  
センターに指定し、県内の  
救急医療提供体制が強化さ  
れました。また、感染症

指定医療機関についても、  
知事は私の質問に対し「安  
全性が担保されている」と  
説明しています。

このほか、在宅ホスピス  
(在宅緩和ケア)を推進す  
る重要性を提起。知事は市  
町村が医師や訪問看護師ら  
を支えるボランティアを育  
成する際、県として支援す  
る意向を初めて表明しまし  
ました。詳細は裏面に特集し  
ています。公式HPやプログ  
でも詳細を報告しています  
のでご参照ください。

古賀市の農業振興ヒー  
ロー「ヨメニコーン改」が、  
地元の新たな特産品「ス  
イーツコーン」を広げるた  
め、大活躍しています。  
「朝どりこがスイーツ  
コーン祭」や「農家直売!  
軽トラ市」、婚活イベント  
などに登場。さらに、古賀  
市内の保育所や幼稚園にも  
現れ、子どもたちに朝ごはん  
を食べる大切さを伝える

など「食育」推進にも熱心  
です。メディアからも注目  
されています。

なお、これらの取り組み  
は今年2月のJA全国青年  
大会で最優秀賞に輝き、私  
も県議会・一般質問で知事  
に紹介したうえで、若手農  
業者支援の促進を求めてい  
ます。



子どもたちと触れ合うヨメニコーン改=2014年6月25日

▼福岡県議会のホームページはこちら  
<http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/>



田辺の政治活動を連日発信しています!

田辺かずき

で 検索

ブログ(政治活動日記)  
公式ホームページ

facebook

Twitter

<http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

<http://www.tanabe-kazuki.jp/>

<http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>

アカウント→ @tanabe\_kazuki

裏面へつづきます

# 高度な医療体制を整備する重要性を提起

6月議会

## 在宅ホスピスの推進も要請

福岡県議会6月定例会。連続13回目となる本会議・一般質問で「医療体制の強化」を取り上げた背景には、県として後押ししてきた国立病院機構・福岡東医療センターの体制整備が安心して暮らしていくために、地域医療の充実を図っていくことが極めて重要だとあわせて、在宅で最期を迎えるニーズに配慮していくために在宅ホスピス（緩和ケア）の推進も求め、知事も前向きに応じました。



医療体制の整備を知事（写真左下）に求めた一般質問＝6月16日

### 福岡東医療センターを救命救急センターに一県内9カ所目

救急医療の提供体制は、患者の症状の重さなどによって初期救急、第二次救急、第三次救急の三段階に区分されます。このうち複数の診療領域にわたる重篤な救急患者を担う三次救急について、福岡県は県内8カ所の病院を救命救急センターに指定していました。

しかし、北九州市と福岡市の中間エリアについては救命救急センターがなく、整備が大きな課題となっていました。そこで、県は保健医療計画に基づき、このエリアに位置する福岡東医療センターを県内9カ所目となる救命救急センターに指定（7月1日付）。本県の救急医療提供体制が大きく強化されることになりました。



福岡東医療センターを6月20日に視察。救命救急センターの内部

### 感染症指定医療機関一知事「安全性を担保」

感染症指定医療機関は、新型インフルエンザなどの重大な感染症の発生に備え、感染症の医療経験のある医師が勤務し、感染防止のための専用施設、設備を整えています。医療機関の同意を得て、知事が指定します。国が示した感染症病床の配置基準に基づき、福岡県も病床を確保し、専用施設・設備を整備する必要があります。今回、福岡東医療センターが第1種2床と第2種10床を整備しました。県としては同センターがこれまで培ってきた感染症に関する実績と体制を高く評価し、7月1日付で指定しました。

一般質問では、私から感染症指定医療機関の重要性とまん延防止にかかわる安全性についての認識を質し、知事は「感染症法に基づき、感染症患者の入院経路の確保とともに、入院治療をしている病室の空気が室外に漏れない構造など、外来者や他の入院患者、医療従事者への感染防止に万全が期され、安全性が担保されている」と説明しました。

### 在宅ホスピスの推進—高齢社会のニーズに応える

住み慣れた家で最期まで暮らしていくことは多くの人の願いであり、ホスピスを在宅で実現していくことは、患者さんにとっても、家族にとっても大きな意義があります。高齢化が急速に進む中、在宅で最期を迎えるニーズはさらに高まります。しかし、2012年の人口動態調査で「在宅死亡率」の現状を見ると、福岡県は12.5%と全国ワースト2位であり、大変厳しいと言わざるを得ません。なお、1位の鳥取県は26.4%、全国平均は19.2%です。

福岡県は在宅ホスピスの推進のため、在宅医療推進事業の一環として2007年度から「在宅ホスピスボランティア養成講座」に取り組み、一般の方々や在宅ホスピスを理解していただき、医師や訪問看護師などのチームの一員としてボランティアで患者や家族に寄り添うことができるよう、地域における人材の育成を図ってきました。

知事は「患者さんとご家族にとってボランティアによる支えは心強くなりたいもの」と意義を説明。私から市町村が地元の医療機関などと連携しながらボランティアの育成を推進できるよう県として後押ししていく必要性を指摘し、知事は「地域包括ケアシステムを構築するうえで、市町村の役割が大きくなっていく。県としては、市町村がボランティアの育成に取り組む際には、県が培ってきたノウハウを活かし、支援したい」と表明しました。



新たに整備された感染症の病棟。病室と廊下の間は二重扉で、室圧を管理することで病室の空気が外に漏れない。



### ＜田辺かずきプロフィール＞



1980年5月16日生まれ  
 1987年／暁の星幼稚園 卒園  
 1993年／花鶴小学校 卒業  
 在学中、第2回古賀町少年の船に参加  
 1996年／古賀中学校 卒業  
 1999年／福岡県立福岡高校 卒業  
 2003年／慶應義塾大学法学部法律学科 卒業  
 毎日新聞社 入社／福井支局 配属  
 原発事故や災害弱者、日本人拉致問題などを取材  
 2006年／大阪本社社会部 配属  
 橋下徹・大阪府知事（当時）、大阪府警、甲子園、福祉問題、地域活性化、国際紛争などに取り組む  
 2011年／福岡県議会議員 初当選  
 厚生労働環境委員会（～13年）  
 国際交流推進対策調査特別委員会（～13年）  
 【現在の所属】新社会推進商工委員会、防災及びエネルギー・水安定供給調査特別委員会、全国青年都道府県議会議員の会、民主党青年委員会  
 【家族】会社員の妻、7歳の長男、4歳の長女

## “田辺かずき事務所からのお知らせ”

### ◇対話集会を開催

私の県議会活動は地元の皆さんの「声」があつてこそ。各地の公民館で対話集会を毎週開催しており、ご連絡をいただければサークル活動などの地域の皆さんの集まりなどにも足を運び、県政報告と意見交換をさせていただきます。事務所(092-692-8510)まで。

### ◇県政報告書の発送

ブログやフェイスブックなどによる連日の情報発信に加え、紙ベースの県政報告書(1～2カ月に1回のペースで発行)で活動をお伝えしており、ご希望の方には郵送させていただきます。県政活動の意義と詳細を記していますので、事務所(092-692-8510)までご連絡ください。

